

平成の野々市史

2019年5月1日、約30年間にわたる平成が幕を下ろし新たな時代を迎えます。「平成」の間には、町から市に移行するなど、市の歴史に欠くことのできない大きな出来事が数多くありました。

振り返ると、懐かしい出来事や「え！こんなに前だったの！」と感じる出来事もあるかも。さあ、時間を少し巻き戻して市の平成の出来事を写真とともに振り返ってみましょう。



平成2年
(1990年)
旧町役場（本町）周辺で行われていた「野々市じょんからまつり」を文化会館フォルテと野々市小学校周辺に会場を移して初開催。



平成9年 JR野々市駅の駅舎
(1997年)
平成9年に、北口プラザ、平成10年には交遊舎を開設。そして平成24年に現在の姿に。



平成4年 まだまだ交通量にゆとりがあ
(1992年) る国道157号線。



データで振り返る 野々市のあゆみ

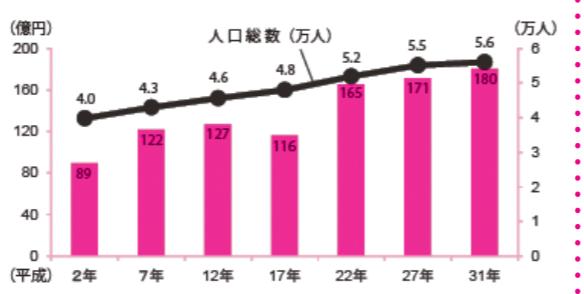
県内有数の人口増を背景に 発展し続けた30年

近隣自治体へのアクセスの良さや、商業施設・医療機関の多さといった利便性の高さを反映し、人口は右肩上がりに増加。一般会計当初予算額は、土地区画整理事業や学校の新校舎建設や耐震化、中央地区整備事業などまちの整備のほか、子育て支援の拡大など福祉の充実を要因として拡大してきました。

住民数の推移

人口数
平成2年国勢調査
39,769人 → 平成31年推計数
56,032人
約1.4倍に増加

世帯数
平成2年国勢調査
14,835世帯 → 平成31年推計数
25,645世帯



平成5年 今でも多くの人が散歩やランニングを楽しんでい
(1993年) るウォーキングコース「健康のみち」を設置。



平成7年 旧町役場（本町）の市民課窓口の様子。
(1995年)

History of Nonoichi -Heisei Edition-

【特集】平成の野々市史

第4位 コミュニティバス「のっティ」の運行がスタート

運賃は気軽に乗れる100円、「北部」、「西部」、「中央」、「南部」の4ルートで市内全体を運行しているコミュニティバス「のっティ」。通学や通勤はもちろん、市民の足として親しまれています。そんな「のっティ」が運行を開始したのは、平成15年のこと。当時使用されていた、前方が少し低い車体を懐かしく感じる人も多いのではないでしょうか。車体に描かれたその愛くるしい姿が評判となり平成22年には、「のっティ」は市の公式キャラクターに就任。

今では、ファンミーティングを開催するほどの人気で、多くの市民に愛されています。



懐かしい旧タイプの車両

第6位 ツバキで広がる交流の輪 第27回全国椿サミット野々市大会の開催

平成29年3月18日、19日の2日に渡って開催した本大会には、ツバキ愛好者や、ツバキに関わりが深い自治体の関係者、約300人が全国から参加。市内に咲くツバキの鑑賞などを通してお互いに交流を深めました。

中央公園にあるツバキの鑑賞・育成施設「愛と花のギャラリー」の「のいち椿館」はこのサミットに合わせてオープン。たくさんの種類のツバキを楽しむことができる場所として親しまれています。

第9位 第46回国民体育大会（石川国体）ソフトボール競技の開催

平成3年10月13日～16日の4日間にわたり、町民野球場（現在の市民野球場）で、行われた本大会。

全国から10チームが参加し熱戦を繰り広げました。全町内会で炬火リレーコースや沿道の清掃を行うなど、町民が一丸となって選手を迎えるました。



石川国体のキャラクター「元気くん」

第5位 北陸初のコミュニティFM局「えふえむ・エヌ・ワン」開局

平成7年、金沢工業大学を中心に市の有志によって北陸では初めて、全国では24番目のコミュニティFM局として開局しました。周波数は、76.3メガヘルツ、野々市市全域と周辺地域を放送エリアとしています。市民や金沢工業大学生などが出演する自主番組を多く制作し開局以来、地域に根ざいた番組を放送し続けています。災害時には、市と連携し緊急情報を発信する役割も。今後も、地域の大切な情報伝達メディアとしての活躍が期待されます。



第7位 まちが雪に覆われた 30豪雪

平成30年1月中旬から2月上旬にかけて、記録的な大雪が北陸地方を襲いました。市内では、50センチを超える積雪を記録し、小中学校の臨時休校、コミュニティバス「のっティ」の運休、ゴミ収集の遅れなど、生活に大きな影響をもたらしました。



福内4丁目地内の様子（2月9日撮影）

第8位 にぎわいの里ののいち カミーノが開館

生涯学習施設である「中央公民館・野々市公民館」、市民協働のまちづくりの拠点となる「市民活動センター」、物産品の販売など市の観光拠点となる民間商業施設「1の1 nonoichi」の3つが集まる複合施設として平成31年4月1日に開館しました。「カミーノ」とは、スペイン語で「道」という意味。今後、市の新しい道を切り開く取り組みがここで生まれることでしょう。

第10位 国史跡末松廃寺跡から「女子像が線刻された土製品が出土」

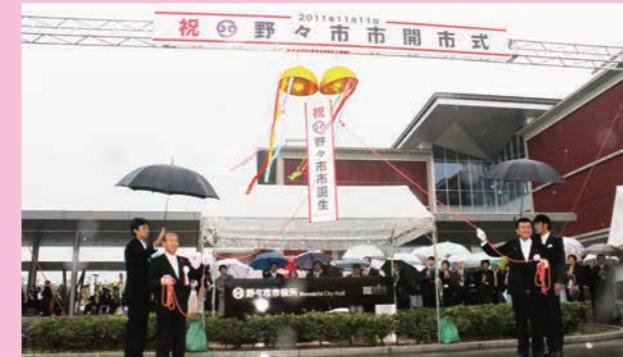
平成30年8月上旬、国指定史跡末松廃寺跡で、女子像が描かれた瓦塔の一部（土製品）が出土しました。鑑定の結果、国内初の貴重な発見であることがわかりました。この時代の信仰の広がりを知る上で重要な資料であり、地域の財産がまた一つ増えました。



＼広報が選ぶ！/

平成の野々市TOP10 重大ニュース

第1位 単独市制を実現し、野々市市誕生！



11日の「野々市市」の誕生です。平成14年頃には、他市町との合併の議論が起るなか、着実に人口数など市制移行への条件を満たし、県内で11番目の市として市制を実現しました。市内各地では市制施行記念イベントが催され、小中学校7校では児童生徒と市民が、午前11時に合わせ色とりどりのバルーンを大空へ放ちました。将来的夢や市の誕生を喜ぶ言葉が書かれた約5千個のバルーンと子どもたちの歓声が新たな市の幕開けを彩りました。



新しい市の名前の候補には「野々市市」の他、「ののいち市」や「椿市」などが市民対象の意識調査に上がりました。どのような名前がふさわしいのか、新市名称検討委員会での議論や、住民説明会などで出た意見を踏まえながら慎重に検討が重ねられました。その中でも、1312年に書かれた古文書にも登場している「野市」の「のいち」という名は、この地の長い歴史を証明する貴重な財産である、という点などから現在の市名が採用されることになりました。

第2位 待望の市立図書館！

学びの杜ののいち カレード開館

本町2丁目地内で開館していた前図書館は、老朽化と蔵書数不足の問題から、新しい図書館への建て替えが長年待ち望まれていました。平成18年に開催した第1回目の新図書館検討会議を皮切りに多くの検討を重ね、ついに平成29年11月1日、太平寺4丁目の旧県立養護学校跡地に、市立図書館と市民学習センターの複合施設「学びの杜ののいち カレード」が開館しました。開館から約1年半の現在、来館者数はなんと72万人を突破。市の顔と呼べる存在となっています。



オープニングの日へ空にバルーンを飛ばしました

第3位 新たな時代の始まり！

町役場（当時）が移転



後方に見えるのが建設中の庁舎

手狭になっていた本町2丁目地内にあった旧町役場。人口増加など市の発展を背景に平成17年1月に、現在の場所（三納）へ庁舎を新築、移転しました。移転前は、一帯が田んぼでしたが、現在は多くの商業店が立ち並ぶ市を代表するエリアとなりました。



市役所前から新庄方面への道。道幅も広くなりました！

